

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成29年7月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

変化に対応できる診療情報管理士

枝光 尚美

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター
診療情報管理室 室長

私は、30年以上の間、実務を行いながら業務内容の変化を目の当たりにしてきました。

診療情報管理士の業務は、退院後の診療記録の点検、コーディング、退院時サマリーのデータベース化、情報検索、統計作成、診療録の保管と貸出管理が主なものでした。一施設に少人数の配置がほとんどでしたから、何でもこなすことが求められていました。

私達にとってエポックメイキングな出来事が数多くあったのは2000年前後です。特に積極的に診療情報を提供することを促進するために示された「診療情報提供に関する指針」は、私達の業務に風穴を開けました。それまで診療録は患者が閲覧することを前提に記載されていませんでしたから、開示に耐えうる診療録についての議論が活発に行われるようになり、2001年には、診療録管理学会と医療研修推進財団が合同で「診療情報提供環境整備に関する講習会」を開催し、診療情報管理士と医師が共に診療記録のあり方について熱く議論をしたことを懐かしく思い出します。今では診療録は患者に提供されるものとなり、提供体制も整ってきています。

前後して電子カルテの本格的導入、病院機能評価の始まり、DPC制度の導入、個人情報保護法や、がん登録法の制定、医師事務作業補助者の登場など医療界の変化は大きなものでした。

この間、退院した患者のカルテを回収し綴じ直しをし、製本したカルテを保管し貸出しに備えるという一連の業務は形を変えていきました。これまでやってきたからという理由で延々と同じ業務を続けても進歩はありません。医療界の変化に合わせて業務のスタイルや内容を変える勇気を持つことが必要です。そのためには、常に最新の情報を入手する努力を惜しまず、現在行っている業務の必要性や目的を考え、理解することが必要です。診療情報管理士の資格取得への道を歩んでおられるみなさんですが、その後も生涯勉強は続きます。必要な知識を習得したうえで、時代や環境の変化に対応できる診療情報管理士を目指して欲しいと思います。

